

子どもへの読みの支援のためのアセスメントアプリ“みみより”と低学年版“みみよりファースト”の開発
 神山典子（岐阜市立加納中学校 教諭）



【研究の目的】

“みみより”とは、報告者が開発したタブレット用アセスメントアプリで、文字の読みに困難さのある子ども（ディスレクシア：DD）の、自分では読めないけれども、読み上げてもらったらわかるという力を評価するものである。本研究では、これまでに明らかになったみみよりの問題点を改良し、子どもたちに実施して、子どもの聴く力が正しく評価できることを実証するとともに、低年齢用の“みみよりファースト”の開発を行うことを目的とした。

【研究の方法】

本研究では、（1）“みみより”の改良と iOS 版の完成（2）みみよりの聴く力の評価能力の検討（3）低年齢版アプリ“みみよりファースト”の開発を行った。

【研究の成果】

（1）“みみより”の改良と iOS 版の完成

これまでの研究から、みみよりは、選択画面の簡素化と結果表示の仕方に改良が必要であるとわかった。具体的内容は以下である。

- ① 検査が自動的に進むようにする。
- ② 結果がひと目でわかる様に表示方法を工夫する。
- ③ 文章読み上げの音声を肉声から AI 音声に変更する。
- ④ 問題の提示時間を再調整する。



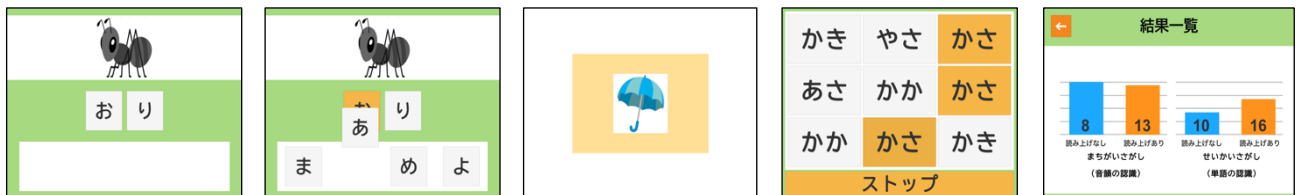
（2）みみよりの聴く力の評価能力の検討

みみより（iPad 版）を定型発達の子どもに実施したところ、よむ課題、きく課題の正答率には差がないことがわかった。このことから、みみよりによって、それぞれの課題に苦手さのある子どもが発見できると考えられた。また、発達障害のある子どもにみみよりを実施したところ、個々の困難さがみみよりにより検出できると考えられた。

みみよりでは反応時間を測定できることから、反応の速さも、児童生徒のよむ、きく能力の評価の指標にすることができると考えられる。今回は収集したデータが少なかつたために、標準的な反応時間の算出はできなかつた。今後、標準化データの収集に取り組んでいく。

（3）低学年版アプリ“みみよりファースト”の開発

先行研究（Rello, L. et al., 2020）を参考に、課題とデザインを検討し、アプリとして完成させた。



【まとめ】

本研究の目的は、「自分で読むよりも、読み上げてもらったほうがよくわかる」という子どもの特性を示すことであった。改良したみみより（iOS 版）を子どもに実施した結果、個々のよむ・きく能力の困難さが検出できると考えられた。また、ディスレクシアによる難しさを示すだけでなく、子どもたちそれぞれの学び方の特性を見分けられる可能性もあり、その活用の幅が広がると考えられた。みみよりファーストについては、先行研究を参考にして製作した課題によって、ディスレクシアのリスクのある幼児を早期に発見できる可能性が示唆された。

適切な支援や指導には、子どものニーズとその有効性を見極めることが不可欠である。今後は、標準化データの収集に取り組む、みみよりとみみよりファーストの妥当性と実用性を高めていきたい。